

サロン 21 10月18日 討論メモ

「人新世の「資本論」」について考える

プレゼンター：資本主義で格差が広がったー：野瀬隆平様

1. まず野瀬さんから今回のテーマ 齋藤幸平氏の著作「人新世の「資本論」」について

- ・何故、こんな難しい本が売れているのか
- ・著者 齋藤幸平氏の経歴
- ・本のはじめにあるつかみ SDG s は「大衆のアヘンである」
- ・「人新世」とは
- ・「資本論」について
- ・「大洪水よ、我が亡き後に来たれ！」
- ・「コモン」とは公共財？
- ・佐藤 優の書評「齋藤はピケティを超えた」
- ・あれも駄目、これも駄目 結局どうすりゃ良いのか
- ・少数派からの出発（3. 5%人から）

等について詳細説明がありました。

2. このあと参加者7名による討議では

- ・この本が30万-50万部売れ新書大賞を取ったことに意義がある

のではないか

- ・脱成長への変換は現在 21 世紀の Global 化した資本主義の命題でもある

- ・嘗て野瀬さんがプレゼンターで解説いただいたピケティ資本論の不等式、利益率 (r) > 成長率 (g)

で成長めざしても一部の人に富の集中が起こる事を示唆

- ・コロナ禍で資本主義の格差が広がってしまい新しい世界の進むべき筋書きが必要ではないか

- ・今 本当の豊かさとは何か、平等な世界とは問われる。もっとゆっくりでもいいのではないか

- ・この本のキーワード： コモン 成長による気候変動、SDG's

- ・この本の内容は 水野和夫が著作で同じように主張していたが、齋藤氏は数字等が豊富で理解し易い

- ・気候変動（今現実には温度が上がってはいるが）脱炭素（CO2）が主原因であるという事、又長いスパンで見れば

寒冷期という論もあり、科学的証明済なのか？

- ・齋藤氏が勉強したドイツには今回政府と連立した気候変動へ強い意識がある緑の党の考えがこの本には反映されているのではな

いか

・彼は大衆のアヘンと呼んでいる SDG's には実際に現在 日本の企業、世界の企業も動いている

・現在開かれている日本国会論議では経済成長ばかり追い求め、これとは異なる「くたばれ GDP」様な議論がされていない

・野瀬さんの解説： GDP：物を作る OUTPUT — 各個人の収入の合計

・気候変動（脱炭素）には最も良い原発については触れていないのでは？

・斎藤氏のこの著作はマルクス「資本論」出て彼が死んだ後、エンゲルルスが公表しなかった詳細な資料を彼が分析したものである

・体制論までは踏み込んではいない。小さな国が対象ではないか？

・価値の仕組みが現在の物質時代から情報時代にうつり、お金での価値で上手く表すことが解決できていないのではないか？

・使用価値でのお金での評価がポイントで、エッセンシャル ワーカーの価値が上手くできてない

- ・ コモンが理想でも私権の制限がされるのではないか？
- ・ デンマークにはコモンが多くあるのではないか
- ・ 社会主義でロボテックスの時代になり、作業を行っている人どのように生きがいを持たせるかが重要になるのではないか  
(自動車の製造の流れ作業による作業現場でも作業員に一つの作業では無く、複数の作業をしてもらい完成車の作業にも少しは関わっていることを自覚する様にして作業員の生きがいを実際に持たせている)
- ・ 福岡市は今経済的成長ということで高層ビル建設ラッシュだが、市長にもこの本を読んでもらい脱成長も考えてほしい

以上